



高校時代の自転車通学が道路への興味につながった、と語る矢澤拓也さん。自転車の肩身の狭さを打開したいと、インフラ事業で評価が高い(株)オリエンタルコンサルタンツに入社。入社3年目で念願の自転車政策に携わり、5年目には技術士資格を取得。自分で掲げた目標に向かって突き進む、矢澤さんの今後の目標などを伺う。

●この職業を選んだきっかけ

建設コンサルタンツを選んだきっかけは、高校の自転車通学で「車道を走れば邪魔者、歩道を走れば悪者」という自転車の肩身の狭い状況に何とかならないのかと、思ったことかもしれません。ここから初志貫徹で国の自転車政策に関わる先生がいる大学へ進学し、土木計画を学びながら大学・大学院と自転車利用に関する研究をしてきました。自転車を含め広く道路交通計画の技術者として社会貢献したいと思い、建設コンサルタンツの道に進むことに決めました。

●職場の魅力や責務

私は主に道路網計画に関する業務に携わっています。供用した道路の整備効果や、将来の道路網の必要性を検討しています。周辺住民や企業の声を聞きながら地域特有の課題を把握し、道路の必要性を検討することは難しさと面白さが共存しています。

建設コンサルタンツの顧客は主に国や自治体ですが、真の顧客は「国民」です。将来、この道路を利用する国民が、「ここにあってよかった」と思えるものを提案していくことが責務と考えます。

●仕事のこだわり、ポリシー
社内外、上下関係問わず、自分の意見を伝えることです。「口があるなら話せ」これは配属当初、上司から伝えられました。より良い考えに立場は関係ないので、話すことに価値があると考えています。

もう一つはチャレンジです。管理技術者の「免許証」である技術士を28歳で取得し、その年に管理技術者として業務を経験しました。技術・経験ともに未熟ですが、20代に管理技術者としての第一歩を踏み出したことで、自らの判断で物事を決めていく責任やプレッ

担い手シリーズ 26

持前の実行力で 目標を設定したら 確実に遂行

矢澤 拓也 入社6年目(技術士)
(株)オリエンタルコンサルタンツ



矢澤 拓也(やざわ たくや)
埼玉県さいたま市出身/茨城大学
大学院理工学研究科都市システム
工学専攻卒業、平成28年4月株式会社
オリエンタルコンサルタンツ入社
会社紹介
(株)オリエンタルコンサルタンツ
812-0011福岡市博多区博多駅前3-2-8
TEL:092-411-6209/ FAX:092-411-3086
<https://www.oriconsul.com>

シャワーを痛感しながらも、仕事のやりがいを感じることができた一年だったと思います。

●仕事上で印象的なエピソード
私が就職前に思い描いていた自転車業務に携わった九州支社では、自転車業務を受注していない状況でした。入社2年目に「自転車業務の受注を目標に掲げるのであればやりましょう」と伝えるところ、翌年に初めて自転車業務に関わることができました。また、その年に自転車活用推進法が施行され、全国で自転車活用推進計画の策定業務が多く発注されました。社会情勢も後押しし、入社3、4年目は主担当技術者、5年目には技術士を取得したため管理技術者として自転車活用推進計画の策定業務に従事しました。やりたかった仕事ができる環境を提供してもらったこと、そして思い描いた以上のステップで自転車業務を経験できた点は、非常に大きな財産になりました。

●今後の目標
これまで技術士はコンサルタンツの「免許証」と考えていました。しかし、技術や経験の少なさを痛感する場面も多く、初心者ドライバーの私には未だ「挑戦権」でしかないと考えています。今後は、業務経験や自己研鑽、外部活動等を通じて技術を磨き上げ、自他ともに認められる「ゴールド免許」の技術者になりたいと思います。